

一般的な貯蔵及び保管

適用範囲

本対策シートは、リスクレベル 1 が適用されるときに使用する。

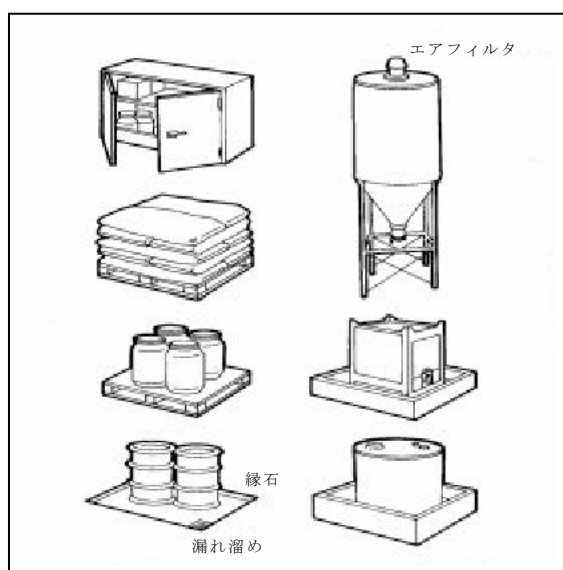
本対策シートは、少量、中量、または多量の粉体や液体を保存するときの好事例および許容できるレベルまでばく露の低減を行うために必要な注意事項を示す。すべての好事例と注意事項に従うことが重要である。化学物質によっては引火性または腐食性があるので、これらの危険性に対しても適切な管理が必要である。詳細は、各化学物質の安全データシート（SDS）の安全上の注意事項を参照すること。

本対策シートは作業者の健康を守るための最低限の基準を示すが、プロセス管理やその他のリスク管理に必要な基準より低い管理基準を正当化するために利用してはならない。

作業場

- 関係者以外を作業場に入れないようにし、風下で誰も作業していないことを確認すること。

設計と装置



一般注意事項

- 保存場所を決めて、標識をはっきり表示すること。
- 保存場所が整理整頓されていること、十分な照明があること、および換気が良いことを確認すること。
- こぼしたものの処理に備えて、十分な広さを確保すること。
- 少しずつ使うものも含めて、すべての容器にラベルを貼ること。
- 保存場所の床は、防水性で清掃がしやすいこと。
- 酸化性化学物質は、引火性の化学物質とは別の建物に保存すること。

小さい容器

- 小型容器は、堅牢なキャビネット（保管庫）に貯蔵及び保管すること。
- キャビネット内にはトレイを置いて漏れやこぼれに備え、清掃をしやすくすること。
- 化学反応が起きやすい化学物質同士を同じキャビネット内に貯蔵及び保管してはならない。必ず、別のキャビネットを用意すること。
- 冷蔵庫に貯蔵及び保管する場合は、防爆対策をすること。

大袋とドラム缶

- 漏れ溜めを作るかまたは縁石で囲うかして、こぼれたものが周囲に流れ出ないようにすること。
- 化学反応が起きやすい化学物質は互いに 3 メートル以上離すこと。

サイロ

- 充填中にサイロから排出される空気はエアフィルタを通すこと。
- サイロの周りに障壁を作って、フォークリフトなどのサイロへの衝突を防ぐこと。
- 各供給部にラベルを貼ること。
- 装置のアースを取ること。
- 可燃性の粉体を扱う場合は、防爆措置の必要性を検討すること。

中間バルクキャリア（IBC）と保存タンク

- 最大容器の体積の 11%に相当する囲いを作って、こぼれたものが流れ出ないようにすること。

検査、試験、および保守

- ファンまたは換気装置を常に正常な状態に保つこと。
- 毎日、ファンの電源を入れて動作を確認すること。動作確認は、ファンの吹き出し側にリボンを取り付けるとよい。
- 保存タンクとサイロの保守は許可制とすること。
- 清掃のために保存タンクやサイロを開けたり中に入ったりする場合は、事前にしなければならないことを確認すること。
- 電動ツールの起動装置に十分注意すること。

清掃と整備

- 装置と作業場を毎日清掃すること。
- こぼしたものをそのまま放っておくと、粉じんまたはガスが発生する。こぼしたものは、直ちにきれいに拭き取ること。
- ほうきや圧搾空気を使って粉じんの清掃をしてはならない。湿らせた布または真空掃除機を使うこと。
- 使用後には、必ず容器に蓋をすること。
- 容器は損傷しないよう安全な場所に貯蔵及び保管すること。
- 揮発性の液体を直射日光が当たる場所に置かないこと。

労働衛生保護具

- 有害性 S の化学物質が皮膚、目、または皮膚から体内に入ると健康障害を起こすことがある。化学物質から皮膚を守る方法に関しては、対策シートの Sk100 を参照す

ること。

- 各化学物質の安全データシート（SDS）の注意事項を読むか納入業者に聞くなどして、必要な労働衛生保護具を用意すること。
- 保護具を保守すること。使わない場合は、きれいにしてから清潔かつ安全な場所に貯蔵及び保管すること。
- 保護具は常時清潔に保ち、定期的に交換すること。また、破損したらすぐに交換すること。

教育と監督

- 作業者に扱う物質の危険・有害性を知らせ、渡した対策シートと保護具が必要な理由を説明すること。
- 作業者に化学物質の安全な取扱い方を教えること。さらに、対策シートを実践していること、および問題発生時の対処方法が周知されているかを確認すること。
- 決めた注意事項が守られているか確認できる体制を確立すること。

本シートは、ILOの著作物である「The Chemical Control Toolkit」について、厚生労働省がILOより許諾を得て翻訳し、内容の改変を行ったものである。

原本：http://www.ilo.org/legacy/english/protection/safework/ctrl_banding/toolkit/icct/sheets/tcs-101.pdf

Original version of the International Chemical Control Toolkit Copyright © International Labour Organization.

Japanese translation Copyright © 2012 Chemical Hazards Control Division, Ministry of Health, Labour and Welfare.

The ILO shall not be responsible for the quality and accuracy of the translation.